

140 明治19年3月16日 山本縁宛

明治十九年三月十六日

相替らすの無沙汰申訳の辞無之平に御免拙者方并横田にても皆障りなし坂の上之長家地面売払代残金御受取被下候や狐崎の模様其後如何に候や小作米ハ何程猶予になり候や右之廉御序に為御知被下度候井筒屋へ米売払の事ハ坂本帰り迄御猶予被下たる趣承知致し候拙者ハ此度不慣の役目申付られ他人ハ悦を云るれ共実は迷惑に存居候英吉利法律学校講義録ハ御望に任せ第二十号迄差立候へハ不遠御落手相成ならんと存居候何たかうるさく忙き故いととの書不祥ハ尚さら不祥となり用書さえも右の通り故坂本米田富澤へハ書翰差出不申候同人ハ可然御伝語且厚意に對する礼意を御述被下度候富澤ハ此頃書通無之多忙か用事なき故なれハ宜く例の窮屈なる人故何か氣に障りたる事にてもなけれハよいと存居候

縁兄

武夫